第３回保育士養成課程等検討会

１　日時　　平成２２年1月１８日（月）１７：００～１９：００

２　場所　　厚生労働省　１７階　専用第２１会議室

３　議題　　保育士養成課程の教科目（科目名、目標、教授内容）の見直しについて

４　配付資料

資　料１　　保育士養成課程の改定案

資　料２　　教科目の教授内容の改定案

資　料３　　改定案の内容と主なポイント

資　料４　　教科目別の改定案の内容と主なポイント

参考資料１　第２回保育士養成課程等検討会における主な意見

参考資料２　主な児童福祉施設の施設数及び保育士数

参考資料３　幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得に必要な教科目の比較

第３回保育士養成課程等検討会	資料１
平成２２年１月１８日	

保育士養成課程の改定案

	現行			改定案		
	系　列	教　　科　　目	履修単位数.	系　列	教　　科　　目	履修単位数
教養科目		体育（講義） 体育（実技） その他	1 1 6		体育（講義） 体育（実技） その他	1 1 6
	教 養 科 目　　計		８以上	教 養 科 目　　計		８以上
必修科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	保育原理（講義） 教育原理（講義） 児童福祉（講義） 社会福祉（講義） 養護原理（講義） 社会福祉援助技術（演習）	4 2 2 2 2 2 計１４	保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義） 教育原理（講義） 児童家庭福祉（講義） 社会福祉（講義） 社会的養護（講義） 保育者論（講義）	2 2 2 2 2 2 計１２
	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学（講義） 教育心理学（講義） 精神保健（講義） 小児保健（講義・実習） 小児栄養（演習） 家族援助論（講義）	2 2 2 5 2 2 計１５	保育の対象の理解に関する科目	保育心理学Ⅰ（講義） 保育心理学Ⅱ（演習） 児童の保健Ⅰ（講義） 児童の保健Ⅱ（演習） 児童の食と栄養（演習） 家庭支援論（講義）	2 1 4 1 2 2 計１２
	保育の内容・方法の理解に関する科目	保育内容（演習） 乳児保育（演習） 障害児保育（演習） 養護内容（演習）	6 2 1 1 計１０	保育の内容・方法に関する科目	保育課程論（講義） 保育内容総論（演習） 保育内容演習（演習） 乳児保育（演習） 障がい児保育（演習） 社会的養護内容（演習） 保育相談支援Ⅰ（演習） 保育相談支援Ⅱ（演習）	2 1 5 2 2 1 1 1 計１５
	基礎技能	基礎技能（演習）	4	保育の表現技術	保育表現技術（演習）	4
	保育実習	保育実習（実習）	5	保育実習	保育実習Ⅰ（実習） 保育実習指導Ⅰ（演習）	4 2
	総合演習	総合演習（演習）	2	総合演習	保育実践演習（演習）	2
	必 修 科 目　　計		５０	必 修 科 目　　計		５１
選択必修科目	保育に関する科目 （上記の系列より科目設定）		８以上	保育に関する科目 （上記の系列より科目設定）		６以上
	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）		2	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習） 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習）		2 1
	選択必修科目　　計		１０以上	選択必修科目　　計		９以上
	合　　計		６８以上	合　　計		６８以上

教科目の教授内容の改定案

第３回保育士養成課程等検討会	資料２
平成２２年１月１８日	

【保育の本質・目的の理解に関する科目】　〔現行〕

＜科目名＞　保育原理　（講義・4単位）

＜目標＞

1. 保育の意義について明確な認識をもたせ、その依拠する原因を理解させる。
2. 保育の場について、その歴史と類型について理解させる。
3. 保育所における保育の原理と特性、環境、方法について理解させる。
4. 発達過程に応じた保育について理解させる。
5. 保育所における保育の健康・安全について理解させる。
6. 保育所における多様な保育ニーズについて理解させる。
7. 保育所と家庭、地域との連携について理解させる。
8. 保育所における相談援助の基本原理と実践について理解させる。
9. 保育所における自己評価について理解させる。

＜内容＞

1. 保育の本質
(1)保育の意義とその思想
(2)保育の目標
(3)子どもの発達特性
(4)保育の原理
2. 保育の場
(1)家庭
(2)保育施設
(3)家庭的保育
3. 保育の歴史と現状
4. 保育所保育の原理
(1)保育の特性
(2)保育の目標
(3)保育の方法
(4)保育の環境
5. 保育所保育の内容
(1)保育の内容構成の基本方針
(2)養護に関わるねらい及び内容
(3)教育に関わるねらい及び内容
6. 保育所保育の計画
(1)保育の計画作成上の基本的視点
(2)保育課程と指導計画
(3)保育の計画作成上の留意事項
7. 発達過程に応じた保育と指導計画
(1)3歳未満児の保育と指導計画
(2)3歳以上児の保育と指導計画
8. 保育所の健康・安全上の留意事項
(1)健康上の留意事項
(2)安全上の留意事項
9. 多様な保育ニーズへの対応上の留意事項
(1)入所児童の多様な保育ニーズへの対応
(2)地域における子育て支援
10. 子育てに関する相談援助活動
(1)子育て支援ニーズと相談援助活動
(2)相談援助の基本原則
(3)保育所における相談援助活動
(4)地域における相談援助ネットワーク
11. 保育所における自己評価
(1)保育士の自己評価
(2)保育所の自己評価
(3)職員の研修と資質の向上
12. 家庭、地域との連携
(1)保育における連携の意味
(2)家庭との連携
(3)幼稚園・小学校との連携
13. 保育士の資質と任務

【保育の本質・目的に関する科目】　〔改訂案〕

＜科目名＞　保育原理　（講義・2単位）　※単位数減少

＜目標＞

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
3. 保育の内容と方法について理解する。
4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について考察する。

＜内容＞

1. 保育の意義
(1)保育の理念と概念
(2)子どもの最善の利益を考慮した保育
(3)保護者との協働
(4)保育の社会的意義
2. 保育所保育指針における保育の基本
(1)養護と教育の一体性
(2)環境を通して行う保育
(3)発達過程に応じた保育
(4)保護者との緊密な連携
(5)倫理観に裏付けられた保育士の専門性
3. 保育の目標と方法
(1)未来をつくりだす力の基礎を培う
(2)生活と遊びを通して総合的に行う
(3)保育における個と集団への配慮
4. 保育の思想と歴史的変遷
(1)諸外国の保育の思想と歴史
(2)日本の保育の思想と歴史
5. 保育の現状と課題
(1)諸外国の保育の現状と課題
(2)日本の保育の現状と課題

【保育の本質・目的の理解に関する科目】

＜科目名＞ 教育原理 （講義・2単位）

＜目標＞

1. 教育の意義・目的及び児童福祉との関連性について理解させる。
2. 教育の基礎的概念、理論、歴史について学び、教育に関する体系的知識を習得させる。
3. 教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について理解させる。
4. 生涯学習社会における教育の在り方について考える。
5. 教育学的な思考や態度を習得させる。

＜内容＞

1. 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性
(1)教育の意義と目的
(2)教育と児童福祉の関連性
2. 教育の基礎的概念と諸理論
(1)諸外国の教育理論
(2)日本の教育理論
(3)幼児教育の理論
3. 教育の歴史
(1)諸外国の教育史
(2)日本の教育史
(3)子ども観と教育観の変遷
4. 教育の制度
(1)教育制度の基礎
(2)教育法規・教育行政の基礎
(3)諸外国の教育制度
5. 教育の実践
(1)教育の内容
(2)教育の方法
(3)教育指導の原理と形態
6. 生涯学習社会における教育
(1)生涯学習の基礎
(2)生涯学習社会における教育
7. 現代の教育問題

【保育の本質・目的に関する科目】

＜科目名＞ 教育原理 （講義・2単位）

＜目標＞

1. 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史について学び、教育に関する体系的知識を習得する。
3. 教育の制度について理解する。
4. 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する
5. 生涯学習社会における教育の課題について理解する。

＜内容＞

1. 教育の意義、目的及び児童福祉との関連性
(1)教育の意義
(2)教育の目的
(3)教育と児童福祉の関連性
2. 教育の思想と歴史的変遷
(1)諸外国の教育思想と歴史
(2)日本の教育思想と歴史
(3)子ども観と教育観の変遷
3. 教育の制度
(1)教育制度の基礎
(2)教育法規・教育行政の基礎
(3)諸外国の教育制度
4. 教育の実践
(1)教育実践の基礎理論—内容、方法、計画と評価
(2)教育実践の多様な取り組み
5. 生涯学習社会における教育の課題
(1)生涯学習社会と教育
(2)現代の教育課題

【保育の本質･目的の理解に関する科目】

<科目名> 児童福祉 (講義･2単位)

<目標>

1. 児童福祉の意義及び歴史的展開過程について理解させる。
2. 児童福祉の法律、制度、福祉機関･施設を体系的に理解させる。
3. 児童福祉サービスの現状と課題を理解させる。
4. 児童福祉の専門職としての保育士の役割を理解させる。
5. 児童、家族に対する相談援助活動について理解させる。

<内 容>

1. 児童福祉の意義とその歴史的展開
(1)児童福祉の概念
(2)児童福祉の理念
(3)現代社会と児童
2. 児童福祉に関する制度と福祉機関･施設
(1)児童福祉に関する法律
(2)児童福祉の制度
(3)児童福祉の機関
(4)児童福祉の施設
(5)児童福祉の費用
3. 児童福祉の現状と課題
(1)少子化と子育て支援サービス
(2)健全育成
(3)母子保健
(4)保育
(5)養護と虐待の防止
(6)障害児
(7)少年非行･情緒障害
(8)ひとり親家庭
(9)現代の児童福祉の課題と展望
(10)諸外国の現状
4. 児童福祉の実践と児童福祉従事者
(1)児童福祉の専門職
(2)児童福祉の専門援助技術
(3)児童福祉サービス関連機関との連携
5. 相談援助活動

【保育の本質･目的に関する科目】

<科目名> 児童家庭福祉 (講義･2単位) ※科目名変更

<目標>

1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と保育との関わりについて理解する。
2. 児童家庭福祉の理念と概念について理解する。
3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

<内 容>

1. 児童家庭福祉と保育
(1)児童家庭福祉の一分野としての保育
(2)子どもの人権擁護と児童家庭福祉
2. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷
(1)児童家庭福祉の理念と概念
(2)児童家庭福祉の歴史的変遷
(3)現代社会と児童家庭福祉
3. 児童家庭福祉の制度と実施体系
(1)児童家庭福祉の制度と法体系
(2)児童家庭福祉行財政と実施機関
(3)児童福祉施設等
(4)児童家庭福祉の専門職･実施者
4. 児童家庭福祉の現状と課題
(1)少子化と子育て支援サービス
(2)児童の健全育成と母子保健
(3)社会的養護と児童虐待防止
(4)少年非行と情緒障害等への対応
(5)多様な保育ニーズへの対応
5. 児童家庭福祉の動向と課題
(1)次世代育成支援と児童福祉の推進
(2)保健･医療･保育･療育･教育等との連携とネットワーク
(3)諸外国の動向

【保育の本質・目的の理解に関する科目】

<科目名> 社会福祉 (講義・2単位)

<目標>

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。
3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。
4. 社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割について理解させる。
5. 社会福祉の関連領域一医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握させる。
6. 現代における利用者保護制度(第三者評価、苦情解決、権利擁護、情報提供等)を理解させる。

<内容>

1. 現代社会と社会福祉の意義
(1)社会福祉の理念と概念
(2)社会福祉の対象と主体
(3)社会福祉ニーズの変容
(4)社会福祉の発展
2. 社会福祉の法体系と実施体系
(1)社会福祉法制の体系
(2)社会福祉のサービス実施体系
(3)社会福祉サービスの評価と情報提供
(4)社会福祉の財政と費用負担
(5)社会福祉サービスにおける公私の役割
(6)社会保障及び関連制度の概要
3. 社会福祉援助技術の概要
(1)社会福祉援助技術の発展経緯
(2)社会福祉援助技術の形態と方法
(3)社会福祉援助活動の動向
4. 社会福祉専門職
(1)社会福祉従事者の概要
(2)社会福祉従事者の専門性と倫理
(3)保健・医療関係分野の専門職との連携
5. 社会福祉の動向
(1)少子高齢社会への対応
(2)在宅福祉・地域福祉の推進
(3)社会福祉基礎構造改革の進展
(4)ボランティア活動の推進
(5)諸外国の動向
6. 利用者保護制度の概要
(1)第三者評価
(2)苦情解決
(3)権利擁護
(4)情報提供

【保育の本質・目的に関する科目】

<科目名> 社会福祉 (講義・2単位)

<目標>

1. 現代社会における社会福祉の意義と児童家庭福祉との関わりについて理解する。
2. 社会福祉の理念と概念について理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

<内容>

1. 社会福祉と児童家庭福祉
(1)社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
(2)子どもの人権擁護と社会福祉
(3)家庭支援と社会福祉
2. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷
(1)社会福祉の理念と概念
(2)社会福祉の歴史的変遷
3. 社会福祉の制度と実施体系
(1)社会福祉の制度と法体系
(2)社会福祉行財政と実施機関
(3)社会福祉施設等
(4)社会福祉の専門職・実施者
(5)社会保障及び関連制度の概要
4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み
(1)情報提供と第三者評価
(2)利用者の権利擁護と苦情解決
5. 社会福祉の動向と課題
(1)少子高齢化社会への対応
(2)在宅福祉・地域福祉の推進
(3)保健・医療・保育・療育・教育等との連携とネットワーク
(4)諸外国の動向

【保育の本質・目的の理解に関する科目】

＜科目名＞ 養護原理 （講義・2単位）
＜目標＞ 1. 社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景などを理解させる。 2. 社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割について理解させる。 3. 児童福祉施設などにおける養護の実際を理解させる。 4. 児童福祉施設援助者としての保育士の役割や援助について理解させる。 5. 児童観や施設養護観を養う。
＜内容＞ 1. 児童養護の概念 (1)家庭や社会の役割 (2)社会的養護を必要とする子どもたち (3)児童養護の歴史 (4)児童養護の体系 家庭、施設、里親 2. 施設における児童養護 (1)施設養護の特質 (2)施設養護の基本原理 個別化、親子関係の尊重と調整、集団の活用 3. 施設養護の実際 (1)日常生活及び自立に向けての援助 (2)治療的・支援的援助（心の傷を癒したり、心を育むための、また障害を支えるための援助） (3)親子関係・学校・地域などとの関係調整 4. 児童福祉施設の運営・管理と援助者 (1)援助(養護)の理念 (2)児童福祉施設の運営・管理 (3)児童福祉施設援助者としての資質 (4)個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術 (5)スーパービジョンとチームワーク (6)倫理の確立 5. 今後の課題

【保育の本質・目的に関する科目】

＜科目名＞ 社会的養護 （講義・2単位） ※科目名変更
＜目標＞ 1. 現代社会における社会的養護の意義と児童家庭福祉や保育との関わりについて理解する。 2. 社会的養護の理念と概念について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護における子どもの人権擁護及び自立支援等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。
＜内容＞ 1. 社会的養護と児童家庭福祉 (1)児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 (2)児童の権利擁護と社会的養護 2. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷 (1)社会的養護の理念と概念 (2)社会的養護の歴史的変遷 3. 社会的養護の制度と実施体系 (1)社会的養護の制度と法体系 (2)社会的養護の仕組みと実施体系 (3)家庭的養護と施設養護 (4)社会的養護の専門職・実施者 4. 施設養護の実際 (1)施設養護の基本原理 (2)施設養護の実際 (3)施設養護とソーシャルワーク 5. 社会的養護の現状と課題 (1)施設等の運営管理 (2)倫理の確立 (3)社会的養護と地域福祉

【保育の本質・目的に関する科目】

	<科目名> 保育者論（講義・2単位）※新設
	<目標> 1. 保育士の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育士のキャリア発達について理解する。 5. 保育士の協働について理解する。 6. 保育士としてのアイデンティティ
	<内容> 1. 保育士の役割と倫理 (1)保育士の役割 (2)保育士の倫理 2. 保育士の制度的位置づけ (1)保育士の資格 (2)保育士の要件 (3)保育士の責務 3. 保育士の専門性 (1)保育の特性 (2)保育士の資質 (3)保育士の専門性 (4)保育の省察 4. 保育士のキャリア発達 (1)保育士としての成長 (2)人間としての成長 5. 保育士の協働 (1)保育士同士の協働 (2)他の専門職及び専門機関との協働 (3)保護者及び地域社会との協働 6. 保育士としてのアイデンティティ (1)自己の省察 (2)保育士としてのアイデンティティ

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞ 発達心理学 （講義･2単位）

＜目標＞

1. 保育は子どもがよき大人に発達するように援助する営みである。その子どもの発達について理解させる。
2. 人間の受精･誕生から死までの発達を理解させる。
3. 発達期の特徴を理解させる。
4. 子どもの将来に影響を及ぼす保育士と子どもとの連鎖的関係を理解させる。
5. 「保育所保育指針」の発達項目を理解させる。

＜内容＞

1. 発達心理学の方法と考え方
(1) 何のために発達心理学を学ぶか
(2) 一人一人の子どもの発達を正確にとらえる必要性を理解させる。
(3) 人間の発達を生涯発達的な視点からとらえ、それぞれの「発達段階」を理解させる。
2. 初期経験の重要性
(1) 知能･性格･感情の基本を形成する乳幼児期の経験について理解させる。
(2) 野生児の事例、動物実験の事例から発達の課題について理解させる。
3. 発達期の特徴
(1) 胎児期
(2) 新生児期
(3) 乳児期
(4) 幼児期
(5) 児童期
(6) 青年期
(7) 成人期から老人期
4. 乳幼児期における発達援助のあり方(保育所保育指針の発達項目)
保育原理2－(4)へ
保育実習Ⅰ3－(2)へ
保育内容総論3－(1)(2)へ

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞ 保育心理学Ⅰ （講義･2単位） ※新設

＜目標＞

1. 保育実践に関わる心理学の知識を習得する。
2. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
3. 子どもの心の健康障害や精神保健について理解する。
4. 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。

＜内容＞

1. 保育と心理学
(1) 子どもの心の理解と発達観･保育観
(2) 自我と自己認識の発達
(3) 子どもの遊びと学び
2. 発達の理論と子どもへの理解
(1) 子どもの発達と環境
(2) 発達の理解と診断
(3) 身体的機能と運動機能の発達
(4) 知覚･認知･思考の発達
(5) 言語の発達
(6) 社会性の発達
3. 子どもの精神保健
(1) 子どもの生活環境と精神保健
(2) 子どもの心の健康障害
(3) 保育実践と精神保健
4. 生涯発達と初期経験の重要性
(1) 胎児期及び新生児期の発達
(2) 乳児期の発達
(3) 幼児期の発達
(4) 学童期の発達
(5) 青年期、成人期、老年期の発達
(6) 生涯発達と保育

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞ 教育心理学 （講義･2単位）

＜目標＞

1. 養護とともに保育を構成する要素としての教育の過程における心理学的法則や事実の理解及び、より効果的な保育を展開するために教育心理学の基本的事項について理解させる。
2. 生涯発達的観点により幼児期から青年期までの保育と教育の関連を把握できるようにするとともに、子ども一人一人の発達に対応した教育的対応についての理解を深めさせる。
3. 子育て支援の一環としての保育における教育的要素に関する相談に対応できる能力を養成する。

＜内容＞

1. 教育心理学とは何か
(1)教育心理学とは何か
(2)保育における教育心理学 → 保育心理学Ⅰ 1へ
(3)教育心理学の方法
2. 発達
(1)生涯発達的発達観 → 保育心理学保育Ⅰ 4－(6)へ
(2)発達段階と個人差
(3)発達課題と個人差 → 障がい児保育へ
3. 学習
(1)学習の過程
(2)学習の理論
4. 知的能力と人格
(1)知能と学力
(2)知能の測定 → 保育心理学Ⅰ 2－(2)へ
(3)知能と創造性

（3.(1)～4.(3) → 保育心理学Ⅰ 1、2－(1)(4)(5)へ）

5. 集団と個人
(1)保育における集団と個人
(2)集団の種類と構造
(3)集団の役割とその指導

（5.(1)～(3) 保育原理3－(3)）

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞ 保育心理学Ⅱ （演習･1単位） ※新設

＜目標＞

1. 個と集団における子どもの心身の発達と保育実践について学ぶ。
2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
3. 発達援助とカウンセリングマインドについて学ぶ。

＜内容＞

1. 個と集団における子どもの発達
(1)個人差や発達過程に応じた保育
(2)子どもと保育者の関係性
(3)子ども相互の関わりと関係作り
(4)自己主張と自己統制
(5)集団づくりと保育の環境
2. 生活や遊びと学びの過程
(1)子どもの生活と学び
(2)子どもの遊びと学び
3. 発達援助とカウンセリングマインド(保育における発達援助)
(1)基本的生活習慣の習得と発達援助
(2)自己の主体性の形成と発達援助
(3)発達課題に応じた援助と関わり
(4)就学への支援と発達の連続性
(5)保育臨床における発達援助
(6)現代社会における子どもの発達と保育の課題

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名> 小児保健 (講義・実習 5単位)

<目標>

1. 生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解させる。
2. 今日、発生している小児の心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法に有ることを認識し、それらの問題に適切に対処できるようにさせる。
3. 小児の健康状態を、個人生活と保育生活等の集団生活のレベルで理解させる。
4. 小児の疾病異常や事故の特徴とその予防について理解し、さらに緊急時の基礎的対応を可能にさせる。
5. 小児の健康が家庭や地域との密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解させる。

<内容>

1. 小児の健康と小児保健の意義と目的
(1)小児の健康の定義と健康に影響する要因
(2)小児の健康と保育との関係
(3)小児の健康と家庭・地域の関連
(4)小児の健康指標と小児保健水準
2. 小児の発育・発達と生活の支援
(1)身体発育の特徴とその評価
(2)精神運動機能発達の特徴とその評価
(3)生理機能と小児の生活
(4)発育・発達を促す保育の実際
3. 小児の食生活と栄養 } 児童の食と栄養
(1)小児の栄養の意義
(2)小児各時期の食生活の実際
4. 心身の健康増進の意義とその実践
(1)小児各時期の健康づくりの意義
(2)小児各時期の健康づくりの実践
5. 小児の疾病とその予防対策
(1)小児期の健康状態の評価 } 児童の保健 Ⅱ－3
(2)小児の疾病の特徴と小児期に多く見られる疾病
(3)心身の状態と保育現場で必要な応急処置
(4)予防接種
(5)養育上問題と心身の健康
(6)疾病異常と支援体制
6. 事故と安全対策 } 児童の保健 Ⅱ－4
(1)小児の事故の特徴
(2)事故と心身の被害と救急処置
(3)事故防止対策と安全教育
(4)事故や災害と精神保健
7. 児童福祉施設における保健対策
(1)児童福祉施設における保健活動の基本的方針
(2)各種の児童福祉施設の特徴と健康管理の実際
(3)保健活動における連携
8. 母子保健対策と保育
(1)地域・母子保健の意義
(2)母子保健サービスの実際
(3)母子保健サービスと保育との連携

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名> 児童の保健Ⅰ (講義・4単位) ※科目名変更

<目標>

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の疾病等と適切な対応について理解する。
4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
5. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について学ぶ。

<内容>

1. 子どもの健康と保健の意義
(1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
(2)健康の概念と健康指標
(3)地域における保健活動と児童虐待防止
2. 子どもの発育・発達と保健
(1)生物としてのヒトの成り立ち
(2)身体発育と保健
(3)生理機能の発達と保健
(4)運動機能の発達と保健
(5)精神機能の発達と保健
3. 子どもの疾病と保育
(1)子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴
(2)子どもの疾病の予防
(3)保育における看護と応急処置
4. 環境及び衛生管理並びに安全管理
(1)保育環境整備と保健
(2)保育現場における衛生管理
(3)保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理
5. 健康及び安全の実施体制
(1)職員間の連携と組織的取組
(2)母子保健対策と保育
(3)家庭・専門機関・地域との連携

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞　精神保健　(講義・2単位)

＜目標＞

1. 小児の精神発達の様相とそれを促す適切な保育のあり方を理解させる。
2. 虐待、いじめ等の心の健康障害の実態を認識し、保育における適切な対処のあり方について理解させる。
3. 単に精神医学的対応のみならず、小児各時期の健全育成を基盤とした保育の必要性を理解させる。
4. 小児の心の健康に関して家庭・地域・保育の連携の重要性を理解させる。

＜内容＞

1. 小児の精神機能発達と精神保健
 (1)精神発達と脳神経系器官の成熟 → 児童の保健Ⅰの2－(5)へ
 (2)心の健康に影響する要因
2. 小児の生活環境と精神保健
 (1)家族関係と小児期の精神保健
 (2)文化・教育環境と小児期の精神保健
 (3)社会環境と小児期の精神保健
 （(1)〜(3)：保育心理学Ⅰの3へ）
3. 小児各時期の精神保健
 (1)身体と精神保健の関係
 (2)乳児期の精神保健
 (3)幼児期の精神保健
 (4)学齢期の精神保健
 （(1)〜(4)：保育心理学Ⅰの4へ）
 (5)思春期の精神保健
4. 小児の心の健康障害
 (1)小児各時期の精神障害の特徴
 (2)心の健康障害と小児の養育のあり方
5. 小児期の精神保健活動
 (1)精神医学と保育の連携
 （4-(1)〜5-(1)：児童家庭福祉4－(2)(3)(4) 障がい児保育 家庭支援論3、4の関連）
 (2)子育て支援対策と心の健康づくり
 (3)児童福祉施設における心のケア
 （(2)(3) → 児童の保健Ⅱ 5-(1)へ）
 (4)地域精神保健活動と保育

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞　児童の保健Ⅱ　(演習・2単位)

＜目標＞

1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価を行う。
2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。
5. 現代社会における心の健康問題や、地域保健活動等について理解する。

＜内容＞

1. 保健活動の計画及び評価
 (1)保健計画の作成と活用
 (2)保健活動の記録と自己評価
 (3)子どもの保健に係る個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
2. 子どもの保健と環境
 (1)保健における養護と教育の一体性
 (2)子どもの健康増進と保育の環境
 (3)子どもの生活習慣と心身の健康
 (4)子どもの発達援助と保健活動
3. 子どもの疾病と適切な対応
 (1)体調不良や傷害が発生した場合の対応
 (2)感染症の予防と対策
 (3)個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(慢性疾患、アレルギー性疾患等)
 (4)乳児への適切な対応
 (5)障がいのある子どもへの適切な対応
4. 事故防止及び健康安全管理
 (1)事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組
 (2)救急処置及び救急蘇生法の習得
 (3)災害への備えと危機管理
5. 心とからだの健康問題と地域保健活動
 (1)子どもの養育環境と心の健康問題
 (2)心とからだの健康づくりと地域保健活動

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞ 小児栄養 （演習・2単位）

＜目標＞

1. 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解させる。
2. 保育者として、保育との関連のなかで、小児に適切な食事が提供できることの意義を理解させる。
3. 保育者として、保育における食生活が心の健康にも影響することを理解させる。
4. 食生活が、家族の健康や生活、地域との密接な関係があることを理解させる。
5. 食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。

＜内容＞

1. 小児の健康な生活と食生活の意義
(1)小児の心身の健康や生活と食生活の関係
(2)家庭・地域における食生活の実態と小児の食生活
2. 小児の発育・発達と食生活
(1)身体発育・精神運動機能発達と栄養・食生活
(2)食べる機能・消化吸収機能発達と栄養・食生活
3. 栄養に関する基本的知識
(1)栄養素、栄養生理、代謝に関する基本的知識
(2)栄養所要量の意義とその活用
(3)小児の集団生活と献立作成・調理の基本
(4)栄養状態の評価
4. 妊娠・授乳期の食生活
(1)妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活
(2)母乳分泌と母乳分泌促進の食生活
(3)妊娠・分娩の異常と食生活
(4)胎児と食生活
5. 乳児期の食生活
(1)乳児期の心身の特徴と食生活の関係
(2)乳汁栄養(母乳栄養・人工栄養・混合栄養)
(3)離乳の意義とその実践
(4)乳児期の栄養上の問題と健康への対応
6. 幼児期の食生活
(1)幼児期の心身の特徴と食生活の関係
(2)幼児期の食生活の特徴とその実践
(3)間食の意義とその実践
(4)幼児期の栄養上の問題と健康への対応
7. 学齢期・思春期の食生活
(1)学齢期・思春期の心身の特徴と食生活
(2)学齢期・思春期の具体的な食生活
(3)学校給食と栄養教育
8. 小児期の疾病と食生活
(1)小児の疾病の特徴と食生活
(2)摂食障害と食生活のあり方
(3)症状別の食生活
(4)食事療法
(5)不適切な食生活と健康障害
9. 障害をもつ小児の食生活
(1)障害の特徴と食生活
(2)障害児の食生活の実際
10. 児童福祉施設における食生活
(1)児童福祉施設の特徴と食生活の基本
(2)児童福祉施設の給食の基本的方針
(3)食事による健康障害とその予防
(4)栄養・食生活に関する教育や指導

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞ 児童の食と栄養 （演習・2単位） ※科目名変更

＜目標＞

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。
4. 家庭や施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

＜内容＞

1. 子どもの健康と食生活の意義
(1)子どもの心身の健康と食生活
(2)子どもの食生活の現状と課題
2. 栄養に関する基本的知識
(1)栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
(2)食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3. 子どもの発育・発達と食生活
(1)乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
(2)幼児期の心身の発達と食生活
(3)学齢期の心身の発達と食生活
(4)生涯発達と食生活
4. 食育の基本と内容
(1)食育における養護と教育の一体性
(2)食育の内容と計画及び評価
(3)食育のための環境
(4)地域の関係機関や職員間の連携
(5)食を通した保護者への支援
5. 家庭や施設における食事と栄養
(1)家庭における食事と栄養
(2)施設における食事と栄養
6. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
(1)体調不良の子ども
(2)食物アレルギーのある子どもへの対応
(3)障がいのある子どもへの対応

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞　家族援助論　(講義・2単位)

＜目標＞

1. 保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であることを理解させる。
2. 「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされることを理解させる。
3. 現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係(夫婦・親子・きょうだい)のあり方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを理解させる。
4. 1～3を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解させる。

＜内容＞

1. 家族とは何か
(1)家族の意味(定義)
(2)家族の機能
2. 家族をとりまく社会的状況と支援体制
(1)都市化
(2)核家族化・少子化
(3)男女共同参画社会の進展
(4)家族の福祉を図るための社会資源
3. 今日における家族生活(家族関係)
(1)夫婦関係(子どもから見た両親のあり方)
(2)親子関係
(3)きょうだい関係
4. 「子育て支援」としての家族対応
(1)「子育て」からみた家族の課題
(2)子育て支援の意義
(3)子育て支援サービスの範囲
(4)「相談・助言」という「子育て支援」
(5)虐待などへの対応
(6)子育て支援サービスの課題
(7)子育て支援サービスの具体的展開
(8)子育て支援における関係機関との連携

【保育の対象の理解に関する科目】

＜科目名＞　家庭支援論　(講義・2単位)　※科目名変更

＜目標＞

1. 保育における家庭支援の意義と役割について学ぶ。
2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況と支援体制について理解を深める。
3. 現代における家庭生活と地域社会の状況について理解を深める。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

＜内容＞

1. 家庭支援の意義と役割
(1)保育士が行う家庭支援の原理
(2)子育て家庭の役割と機能
(3)保育士の専門性と家庭支援
2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況と支援体制
(1)今日の社会と子育て家庭を取り巻く状況
(2)男女共同参画社会とワークライフバランス
(3)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
(4)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
3. 現代社会における家庭生活と地域社会
(1)家庭における人間関係
(2)地域社会の変容と家庭支援
4. 多様な支援の展開と関係機関との連携
(1)子育て支援サービスの概要
(2)保育サービスの現状と課題
(3)地域の子育て家庭への支援の実際
(4)子育て支援における関係機関との連携
(5)子育て支援サービスの課題

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞ 保育課程論(保育の計画と評価) (講義・2単位) ※新設
＜目標＞ 1. 施設における保育の計画と評価に関する基本的視点を理解する。 2. 保育の根幹となる保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造をとらえ、理解する。
＜内容＞ 1. 保育の計画と評価の基本 (1)カリキュラムの基礎理論 (2)保育所における保育の計画と評価の意義 (3)保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義 (4)計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上 2. 保育所における保育の計画 (1)保育所保育指針と幼稚園教育要領 (2)保育課程と指導計画 (3)保育課程の編成 (4)指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項 3. 保育の計画の実際 (1)保育課程の実際 (2)指導計画の実際 4. 保育所における保育の評価 (1)保育の記録の意義と実際 (2)保育士及び保育所の自己評価 (3)保育の計画の再編成 (4)発達の連続性を踏まえた保幼小の連携と保育所児童保育要録

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

＜科目名＞ 保育内容 （演習・6単位）

＜目標＞

1. 「保育内容」とは、保育所において保育の目標を達成するために展開される全ての内容を意味するものであることを理解させる。
2. 領域別（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の教科の学びと共に、それらを総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子どもの理解や保育方法について学ばせる。
3. 保育士として、発達過程に即して子ども理解することと、総合的に指導・援助が行えるよう実践的な力を習得させる。
4. 「保育内容」は、5領域を視野に入れた教科（5領域に区分、5領域にとらわれず区分のいずれも可）と、それらの教科を統合する「保育内容総論」から構成されることが望ましい。

＜内容＞

1. 保育の基本と保育内容
(1)保育の基本と内容・方法を理解させる
(2)全体構造の中で保育内容をとらえる
2. 保育内容の歴史的変遷
3. 子どもの発達と保育内容
(1)子どもの発達の捉え方と保育内容
(2)保育所保育指針の発達観
(3)保育所保育指針での保育内容の構成
ア 養護に関わるねらい及び内容　イ 教育に関わるねらい及び内容
ウ 養護と教育の一体性
4. 子どもの活動と保育環境・子どもの活動と援助
(1)子どもの活動の捉え方と環境
(2)保育の環境とは・環境構成とは
(3)保育者の援助とは
(4)遊びを通しての総合的指導とは
5. 保育の計画と評価
(1)保育課程の編成
(2)指導計画の作成
(3)保育の展開と自己評価
6. 保育内容の課題
(1)多様な保育ニーズへの対応と保育内容
(2)幼稚園・小学校との連携　(3)保育内容を学び・研究する保育者

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞ 保育内容総論 （演習・1単位） ※保育内容を分割

＜目標＞

1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容についての理解を深める。
3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子どもへの理解を深める。
4. 子どもの生活全体を通して、養護（生命の維持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的となって展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。
5. 多様な保育の展開について具体的に学ぶ。

＜内容＞

1. 保育の基本と保育内容
(1)保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
(2)保育の全体構造と保育内容
2. 保育内容の歴史的変遷
3. 子どもの発達過程と子ども理解
(1)子どもの発達の特性と発達過程
(2)保育における個と集団の発達
(3)保育における観察と記録
4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
(1)養護と教育が一体となって展開する保育
(2)遊びによる総合的な保育
(3)環境を通して行う保育
(4)生活や発達の連続性に考慮した保育
(5)家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
5. 多様な保育の展開
(1)乳児保育
(2)長時間の保育
(3)特別な支援を必要とする子どもの保育
(4)外国籍の子どもの保育

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞ 保育内容演習（演習・5単位）

＜目標＞

1. 保育内容総論で習得する事項を踏まえ、養護と教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育が展開されていくための知識、技術、判断力を習得する。
2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

＜内容＞

以下の観点から、総合的に保育内容を理解する。

1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりである「養護」
2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育（健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域）」

①健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域。

②他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う「人間関係」の領域。

③周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」の領域。

④経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う「言葉」の領域。

⑤感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする「表現」の領域

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

＜科目名＞ 乳児保育 (演習・2単位)

＜目標＞

1. わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚させる。
2. 保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解させる。
3. 広く乳児期(3歳未満児)の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解させる。
4. 乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解させる。

＜内容＞

1. 乳児保育の意義
(1)乳児・乳児保育の概念
(2)保育ニーズと乳児保育の考え方の基本
2. 乳児保育の発展の経緯と現状
(1)乳児に対する保育観の変遷
(2)乳児保育の一般化への過程
(3)保育所・乳児院の役割と乳児保育の位置づけ
3. 乳児の発達と保育
(1)0歳児の発達と保育(新生児期、0歳児前期、0歳児後期)
(2)1歳児の発達と保育
(3)2歳児の発達と保育
(4)乳児の発達と保育(援助の基本的視点の獲得)
4. 乳児の発達と保育
(1)乳児保育の計画(保育課程、指導計画)
(2)保育形態と保育の環境構成
(3)職員の協力体制
(4)家庭・他機関・家庭的保育・地域との連携
5. 保育の計画と記録・自己評価
(1)記録・自己評価
(2)保育士の専門性
6. 今後の課題

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞ 乳児保育 (演習・2単位)

＜目標＞

1. 乳児保育を支える理念と歴史的変遷について学ぶ。
2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題、果たす役割等について理解する。
3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。
4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。
5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

＜内容＞

1. 乳児保育の意義とその理念
(1)「乳児」の概念と乳児保育の歴史的変遷
(2)乳児保育の基本
2. 乳児保育の現状と課題
(1)保育所における乳児保育
(2)乳児院における乳児保育
(3)在宅保育・家庭的保育における乳児保育
(4)乳児や家庭を保取り巻く環境と子育て支援の場
3. 3歳未満児の発達と保育内容
(1)乳児保育における基本的な技術
(2)6か月未満児の発達と保育内容
(3)6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容
(4)1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容
(5)2歳児の発達と保育内容
4. 乳児保育の実際
(1)保育の計画(保育課程、指導計画、個別計画)の作成と観察・記録及び自己評価
(2)個々の発達を促す生活と遊びの環境
(3)職員間の連携
5. 乳児保育における連携
(1)保護者とのパートナーシップ
(2)医療・保健機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

＜科目名＞　障害児保育　(演習・1単位)

＜目標＞

1. 一般の保育と障害児保育との連続性に気づかせ，一人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害理解を促す。
2. 障害児保育を支える理念に関して理解を深め，併せて，保育所，障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状，及び今後の課題を理解させる。
3. 様々な障害についての理解を促し，個別的な保育上の留意点について学習させる。
4. 障害児保育場面における、日常生活動作、食事動作、排泄動作、更衣動作など具体的な保育方法について理解させる。
5. 相談機関などの種類と内容を理解すると共に，障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深めさせる。

＜内容＞

1. 障害児保育を支える理念
インテグレーション，メインストリーミング，ノーマライゼイション，インクルージョン
2. 障害児を取り巻く保育の現状
(1)保育の現状と課題
(2)専門機関とのよりよい連携
3. 様々な障害の理解と個別配慮
(1)障害の種類とその特徴
(2)保育現場での留意事項
4. 個に応じた保育支援
遊びや対人関係の援助、食事動作、排泄動作、更衣動作などの生活動作に関する具体的な保育技術
5. 家庭に対する支援
家庭との連携と協力

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞　障がい児保育(特別支援保育)　(演習・2単位)　※科目名要検討

＜目標＞

1. 障がい児保育(特別な支援を要する子どもの保育)を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育についての理解を深める。
2. 様々な障がいについて理解し、子どもの観察や支援の方法、環境構成等について学ぶ。
3. 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援とともに他の子どもとの関わりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。
4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について学ぶ。
5. 障がいのある子どもにかかわる保健・医療・福祉・教育等の制度とその課題について理解する。

＜内容＞

1. 障がい児保育を支える理念
(1)「障がい」の概念と障がい児保育の歴史的変遷
(2)障がい児保育の基本
2. 障がいの理解と保育における発達の援助
(1)肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助
(2)知的障害児の理解と援助
(3)発達障害児の理解と援助①(ADHD－注意欠陥多動性性障害、LD－学習障害等)
(4)発達障害児の理解と援助②(PDD－広汎性発達障害等)
3. 障がい児保育の実際
(1)障がい児保育の計画(保育課程、指導計画、個別支援計画)の作成と記録及び評価
(2)個々の発達を促す生活や遊びの環境
(3)子ども同士の関わりと育ち合い
(4)職員間の連携
4. 家庭及び関係機関との連携
(1)保護者や家族に対する理解と支援
(2)地域の専門機関等との連携
(3)小学校等との連携
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる制度と課題
(1)保健・医療にかかわる制度の現状と課題
(2)福祉・教育にかかわる制度の現状と課題
(3)支援の場のひろがりとつながり

【保育の内容・方法の理解に関する科目】

<科目名> 養護内容 （演習・1単位）
<目標> 1. 模擬的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になったり生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助者の援助を理解させる。 2. 児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を習得させる。 3. 児童観や施設養護観を養う。
<内容> 1. 児童福祉施設利用者 (1)家庭環境により家庭で生活することができない子どもたち (2)心身に障害があるために専門的なケアーを必要とする子どもたち 2. 援助(養護)の内容 (1)基本的な日常生活の援助 (2)心の傷を癒したり、心を育むための援助 (3)親子関係を調整するための援助 (4)学校や地域などとの関係を調整するための援助 (5)自己実現・自立への援助 3. 援助(養護)の理念 (1)子どもの最善の利益 (2)生存と発達の保障 (3)権利擁護 4. 児童福祉施設援助者 (1)児童福祉施設の援助者としての資質、倫理 (2)個別援助技術や集団援助技術などの専門援助技術 6. 今後の課題

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 社会的養護内容 （演習・1単位）
<目標> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育者等の倫理について具体的に学ぶ。 2. 施設養護及び他の社会的養護の実際と援助内容について学ぶ。 3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等について具体的に学ぶ。 4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。 5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童福祉、地域福祉について理解や認識を深める。
<内容> 1. 児童の権利擁護と保育者等の倫理及び責務 (1)児童の権利擁護 (2)保育士等の倫理及び責務 2. 社会的養護の実施体系 (1)施設養護の特性及び実際 (2)里親制度の特性及び実際 3. 支援計画と事例分析 (1)個別支援計画の作成 (2)日常生活支援に関する事例分析 (3)治療的支援に関する事例分析 (4)自立支援に関する事例分析 (5)記録及び自己評価 4. 社会的養護に関わる専門的技術 (1)保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用 (2)ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用 5. 今後の課題と展望 (1)施設の小規模化と地域との関わり (2)社会的養護の課題と展望

【保育の内容・方法に関する科目】

＜科目名＞ 保育相談支援Ⅰ （演習・1単位） ※新設
＜目標＞ 1. 保育実践にとって必要な「保護者に対する保育に関する指導」の意義、内容、方法について理解する。 2. 保育における保護者支援について学び、その方法や技術を習得する。 3. 保育相談援助の理論と実際について理解する。
＜内容＞ 1. 保護者に対する保育に関する指導の意義と原則 (1)保護者に対する保育に関する指導の意義 (2)子どもの最善の利益と福祉の重視 (3)人権の尊重 (4)保育の特性と保育士の専門性を生かした支援 (5)保護者の養育力の向上に資する支援 (6)保護者との信頼関係の構築 (7)地域の関係機関等との連携・協力 2. 保護者支援の実際 (1)保育における保護者支援 (2)保護者支援の歴史的変遷 (3)保護者支援の内容 (4)保護者支援の方法と技術 (5)保護者支援の計画と記録・評価 3. 保育における相談・助言 (1)保育所等児童福祉施設における相談、助言の機能 (2)相談、助言の原則(受容の原則、自己決定の原則、秘密保持の原則等) (3)ケースカンファレンスの意義と方法

【保育の本質・目的の理解に関する科目】

<科目名> 社会福祉援助技術 (演習・2単位)
<目標> 1. 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史を理解させる。 2. 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる。 3. 人権の尊重、自立支援、秘密保持等の基本姿勢について理解させる。 4. 保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いた演習形態で学び、またコミュニティーワーク、ケアマネージメントについても理解させる。
<内容> 1. 保育と社会福祉援助技術 (1)社会福祉援助技術の意味 (2)社会福祉援助技術の方法 (3)保育と社会福祉援助技術の関係 2. 社会福祉援助技術の発展過程 3. 個別援助技術(ケースワーク) (1)個別援助技術の意義と機能 (2)個別援助技術の構成要素 (3)個別援助技術の原則 (4)個別援助技術の展開過程 (5)面接、記録、評価 (6)保育場面と個別援助技術の実際 4. 集団援助技術(グループワーク) (1)集団援助技術の意義と機能 (2)集団援助技術の援助媒体 (3)集団援助技術の展開過程 (4)保育場面と集団援助技術の実際 5. 地域援助技術(コミュニティーワーク) (1)地域援助技術の意義と機能 (2)地域援助技術の基本的性格 (3)地域援助技術の具体的実践例 6. ケアマネージメント 7. 事例研究(演習) (1)保育所における児童・家族への援助 (2)保育所以外の児童福祉施設における児童・家族への援助 ※教授に当たっては、導入時期においては講義形式で授業を行うことは差し支えないが、全体としては演習的展開とすること。

【保育の内容・方法に関する科目】

<科目名> 保育相談支援Ⅱ (演習・1単位) ※科目名変更、系列変更
<目標> 1. 保育士が活用する機会の多いソーシャルワーク的機能について理解を深める。 2. 保育とソーシャルワークの関係について学び、ソーシャルワークの体系について理解する。 3. ソーシャルワークの方法と技術について具体的に理解する。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例研究を通して対象への理解を深める。
<内容> 1. 保育におけるソーシャルワーク (1)ソーシャルワークの意義 (2)ソーシャルワークの機能と方法 (3)保育とソーシャルワーク (4)計画及び記録・評価 2. 相談援助におけるソーシャルワーク的機能の展開 (1)ケアワーク (2)グループワーク (3)コミュニティワーク (4)その他のアプローチ 3. 保護者支援のための保育マネジメント (1)保護者との関係と連携 (保護者の意向、保護者の苦情への対応、アウトリーチ、保護者の子育て力の向上等) (2)関係機関との連携、協働 (3)社会資源の活用、調整、開発 (4)地域子育て支援 4. 事例研究 (1)事例分析①(虐待の予防と対応等) (2)事例分析②(障がいのある子どもとその保護者への支援等) (3)事例体験(ロールプレイ、フィールドワーク等)

【基礎技能】

＜科目名＞ 基礎技能 （演習・4単位）

＜目標＞

1. 保育の内容を理解し展開するために必要な知識や技能を習得させる。
2. 音楽及び造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。
3. 身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成したり、それらに必要な知識や技能を習得させる。

＜内容＞

1. 音楽に関する基本的な知識や技能
(1)楽譜を読むために必要な基本的な知識
(2)歌い、演奏するために必要なソルフェージや器楽に関する知識や技能
(3)様々な音楽活動を通しての楽しさや喜びの経験
(4)子どもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など保育実践において必要な知識や技能
2. 造形に関する基本的な知識や技能
(1)造形活動を行う上で必要な材料や道具などに関する基本的な知識
(2)描き造るために必要な絵画や工作、彫塑などに関する知識や技能
(3)様々な造形活動を通しての楽しさや喜びの経験
(4)造形玩具、遊具、ペープサート、影絵など保育実践において必要な知識や技能
3. 体育に関する基本的な知識や技能
(1)身体運動に関する基本的な知識と技能
(2)保育実践において必要な知識や技能
(3)運動遊びにおける安全管理

【保育の表現技術】

＜科目名＞ 保育表現技術 （演習・4単位） ※科目名変更、系列名変更

＜目標＞

1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。
2. 身体表現、音楽表現、造形表現、児童文化財等の表現活動に関する知識や技術を習得する。
3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と保育の環境構成及び保育の具体的展開のための技術を習得する。

＜内容＞

1. 身体表現に関する知識や技術
(1)子どもの発達と身体表現に関する知識と技術
(2)見立てやごっこ遊び、劇遊び、運動遊び等にみる子どもの経験と保育の環境
(3)子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつける遊びの展開
2. 音楽表現に関する知識や技術
(1)子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術
(2)身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境
(3)子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開
3. 造形表現に関する知識や技術
(1)子どもの発達と造形表現に関する知識と技術
(2)身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境
(3)子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開
4. 児童文化財の活用と展開に関する知識や技術（言語表現等に関する知識や技術）
(1)子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテーリング等に関する知識と技術
(2)子ども自らが児童文化財に触れ、親しみ関わる保育の環境
(3)子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財とを結びつける遊びの展開
5. 教材等の活用及び作成と保育の展開
(1)様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解と活用及び作成
(2)子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開

【保育実習】

<科目名> 保育実習 (実習・5単位)
<目標> 1. 児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解させる。 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ばせる。
<内容> 【保育実習指導(1単位)】 (ねらい) 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。 (内 容) 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習等を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う。とりあげる内容は次の通りである。 (1)保育実習の意義・目的・内容の理解 (2)保育実習の方法の理解 (3)実習の心構えの理解。特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解。 (4)実習課題の明確化 (5)実習記録の意義・方法の理解 (6)実習施設の理解 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う。 3. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。 【保育所における実習(2単位)】 (ねらい) 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。 (内 容) 1. 実習施設について理解させる 2. 保育の一日の流れを理解し、参加させる 3. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解させる

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅰ (実習・4単位:保育所実習2単位・施設実習2単位)
<目標> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画と記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
<保育所実習の内容> 1. 保育所の役割と機能 (1)保育所の生活と一日の流れ (2)保育所保育指針の理解と保育の基本 (3)保育所の社会的役割と責任 2. 子ども理解 (1)子どもの観察とその記録による理解(環境を通して行う保育・養護と教育が一体となって行われる保育) (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの関わりと援助 3. 保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育環境 (4)子どもの健康と安全 4. 保育の計画と記録 (1)保育課程と指導計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理

4. 保育課程・指導計画を理解させる
5. 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得させる
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる
7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる
9. 保育士としての倫理を具体的に学ばせる
10. 安全及び疾病予防への配慮について理解させる

【居住型児童福祉施設等における実習（2単位）】
（ねらい）
居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ばせる。
（内　容）
1. 実習施設について理解させる
2. 養護の一日の流れを理解し、参加させる
3. 子どもの観察や関わりを通して、子どものニーズを理解させる
4. 援助計画を理解させる
5. 生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得させる
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解させる
7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解させる
8. 子どもの最善の利益についての配慮を学ばせる
9. 保育士としての職業倫理を理解させる
10. 安全及び疾病予防への配慮について理解させる

＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞
1. 施設の役割と機能
(1)施設の生活と一日の流れ
(2)施設の役割と機能
2. 子ども理解
(1)子どもの観察とその記録
(2)個々の状態に応じた関わりと援助
3. 養護内容・生活環境
(1)計画に基づく活動や援助
(2)子どもの心身の状態に応じた対応
(3)子どもの活動と生活の環境
(4)健康管理、安全対策の理解
4. 計画と記録
(1)支援計画の理解と活用
(2)記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と倫理
(1)保育士の業務内容
(2)職員間の役割分担や連携
(2)保育士の役割と職員倫理

【保育実習】

<科目名> 保育実習指導Ⅰ （演習・2単位） ※保育実習より分化

<目標>

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習施設における担当保育士や担当教員の指導を通して、保育内容や子どもへの理解を深める。
6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<内容>

1. 保育実習の意義
(1)実習の目的
(2)実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
(1)実習の内容
(2)実習の課題
(3)実習の計画と記録
3. 実習に際しての留意事項
(1)子どもの人権と最善の利益の考慮
(2)プライバシーの保護と守秘義務
(3)実習生としての心構え
4. 実習施設における指導
(1)担当保育士による指導・助言
(2)担当教員による指導・助言
5. 事後指導における実習の総括と評価

【総合演習】

＜科目名＞ 総合演習 （演習・2単位）

＜目標＞

1. 保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させる。
2. 保育に関する現代的課題について、問題等の現状分析・検討を行わせる。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について検討させる。
4. 必修科目（総合演習を除く。以下同じ。）及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認させる。

＜内容＞

「総合演習」は、次の①又は②のいずれかを実施するものとする。

① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、検討を行うと共に、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について学修させるものとする。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、解決内容について再検討する手法を取得させることをも目的とする。

② 総合演習を履修する者の必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする。

【参考例】

①について

（課題）

1. 少子化への対応
2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
3. 長時間保育と子どもの発達について
4. 少子高齢化と世代間交流

（教授方法）

1. テーマごとのディスカッション
2. 研究発表
3. 研究発表

②について

（必要な知識技能を修得したことを確認するための授業内容・方法）

1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
5. 資質能力の確認、まとめ

【保育実践演習】

＜科目名＞ 保育実践演習 （演習・2単位） ※教職実践演習との整合性を図る（幼）

＜目標＞

1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。
4. 必修科目（保育実践演習を除く。以下同じ。）及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

＜内容＞

「保育実践演習」は、次の①又は②のいずれかを行うものとする。

① 保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。

② 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認する。

【参考例】

①について

（課題）

1. 少子化への対応
2. 虐待及びそれに伴う世代間連鎖について
3. 長時間保育と子どもの発達について
4. 幼稚園・認定こども園・小学校との連携について

（方法）

1. テーマごとのディスカッション
2. 研究発表
3. 研究発表

②について

（必要な知識技能を修得したことを確認するための方法・内容）

1. イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論
2. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についてのグループ討論。ロールプレイング
3. 社会性、対人関係能力、児童理解等についてのグループ討論
4. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論
5. 資質能力の確認、まとめ

選択必修
【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅱ (実習・2単位)
<目標> 1. 保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<内容> 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得させる。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得させる。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 3. 指導計画を立案し、実際に実践させる。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ばせる。 6. 子どもの最善の利益への配慮を学ばせる。 7. 保育士としての職業倫理を理解させる 8. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

選択必修
【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅱ (実習・2単位:保育所実習)
<目標> 1. 保育所における養護と教育にかかわる実践を通し、保育士として必要な知識・技術を習得する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、保護者支援、家庭支援のための能力を養う。
<内容> 1. 保育所保育に対する具体的理解 (1)保育所の生活と子どもの状況 (2)養護と教育の一体性 2. 子どもの状態に応じた個別支援 (1)個人差への配慮 (2)発達に遅れのある子どもへの対応 (3)発達過程に応じた保育 3. 保育課程に基づく指導計画の作成と実践 4. 子どもの保護者・家族への関わりと支援 5. 地域社会との関わりと連携 6. 子どもの最善の利益の考慮 (1)子どもの最善の利益の具体化 (2)子どもの人権 7. 保育士の倫理と責務 8. 課題の明確化

選択必修

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅲ (実習・2単位)
<目標> 1. 児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得させる。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
<内容> 1. 養護全般に参加し、養護技術を習得させる。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得させる。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。 3. 援助計画を立案し、実際に実践させる。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を、具体的に習得させる。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ばせる。 6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ばせる。 7. 保育士としての倫理を具体的に学ばせる。 8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化させる。

【保育実習】

<科目名> 保育実習Ⅲ (実習・2単位:保育所以外の施設実習)
<目標> 1. 児童福祉施設等(保育所以外)における施設養護の実践を通し、保育士として必要な知識・技術を習得する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、保護者支援、家庭支援のための能力を養う。
<内容> 1. 施設養護に対する具体的理解 (1)施設の生活と子どもの状況 (2)養護的関わりの基本 2. 子どもの状態に応じた個別支援 (1)個人差への配慮 (2)発達に遅れのある子どもへの対応 (3)生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 3. 個別支援計画の作成と実践 4. 子どもの家族への関わりと支援 5. 地域社会との関わりと連携 6. 子どもの最善の利益の考慮 (1)子どもの最善の利益の具体化 (2)子どもの人権 7. 保育士の倫理と責務 8. 課題の明確化

【保育実習】

	<科目名> 保育実習指導Ⅱ又はⅢ （演習・1単位） ※新設
	<目標> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育全般について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容を踏まえ、教科横断的な学力や保育実践力を培う。 3. 保育の記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善や問題解決について実践や事例を通して学ぶ。 4. 実習施設における担当保育士や担当教員の指導を通して、保育や子どもについての理解を深める。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする
	<内容> 1. 保育実習による総合的な学び (1)保育・福祉の理論と実践 (2)実践の相対化 2. 保育実践力の育成 (1)施設の特性や生活環境への理解 (2)子どもの状態やニーズに応じた適切な対応 (3)保育の表現技術の応用 3. 計画と記録、自己評価の連動 (1)指導計画及び個別支援計画 (2)自己評価による課題の明確化 4. 実習施設における指導 (1)担当保育士による指導 (2)担当教員による指導 5. 事後指導における実習の総括と評価 (1)子どもの最善の利益の考慮 (2)保育士の専門性

<科目名> 選択必修（8単位）

<科目名> 選択必修（6単位）※単位数減少

第３回保育士養成課程等検討会	資料３
平成２２年１月１８日	

改定案の内容と主なポイント

１．基本的考え方

①保育所保育指針の内容及び保育現場での諸課題、保育士養成の現状と課題を踏まえて見直しを行う。
②短大等２年制の課程を基本とするため、取得総単位数は変更しない。
③保育現場の実践や保育士の専門性を十分に踏まえた内容とする。
④保育士養成課程等検討会での意見や討議、提案を踏まえ総合的に改定案を作成する。

２．保育士養成課程案作成の留意点

①〈到達目標〉を〈目標〉にする。その上で、教授する側でなく学ぶ方を主体とした書き方に変える。（例：「～について理解させる」→「～について理解する」）
②〈目標〉を、　おおむね５項目前後設ける
〈内容〉を　目標に沿っておおむね５項目の柱を立て、そこに小項目を３～５程度入れる。小項目合計を１５程度とする
③同様の意味内容は教科目間で、文言を揃えるなど精査する。
（例：「～の理念と概念」「～現状と課題」「～歴史的変遷」等

３．教科目の系列

①「保育の本質・目的の理解に関する科目」→「保育の本質・目的に関する科目」
「保育の内容・方法の理解に関する科目」→「保育の内容・方法に関する科目」

②各系列にある教科目の配列順序を変更する
→まず、保育原理を先に出す。内容を見て配列し直す。

③「基礎技能」を「保育の表現技術」とする。
→保育における表現に関わる技術の習得をねらいとする。

４．教科目の新設

①「保育者論」の新設。「保育原理」４単位を２単位にし、「保育者論」で保育士の職務内容、役割と倫理等について学ぶこととする。

②「保育心理学Ⅰ」「保育心理学Ⅱ」の新設。「教育心理学」と「発達心理学」を統合する科目として、保育との関連で子どもの発達や教育等について学ぶ。特に、演習（Ⅱ）において、保育と子どもの心理との関連や子どもの発達課題等について具体的に学べるようにする。
※「保育心理学」という書物や一部の大学での講義もあるが、学問として確立されているわけではないため、「児童の心理と保育」「児童の心理」「保育発達心理」とすることも考えられる。
③「保育相談支援Ⅰ」「保育相談支援Ⅱ」の新設。保育実践に活用される内容を吟味する。これまでの「社会福祉援助技術」の内容を踏まえ相談援助の基本や概論を学ぶⅠと、保育現場における相談援助や保護者支援を中心に行う保育相談支援のⅡとを設置。

５．名称の変更及び教科目の統合

①「児童福祉」→「児童家庭福祉」

②「養護原理」→「社会的養護」

③「小児保健」→「児童の保健Ⅰ」「児童の保健Ⅱ」
「小児栄養」→「児童の食と栄養」

④「家族援助論」→「家庭支援論」

⑤「障害児保育」→「障がい児保育」

⑥「保育総合演習」→「保育実践演習」
幼稚園教諭養成において、「教職実践演習」に教科目を変更したことを受けての変更

６．教科目の統合

①「発達心理学」「教育心理学」は、「保育心理学Ⅰ・Ⅱ」を中心に「教育原理」「乳児保育」「保育者論」等に統合

②「精神保健」は、「児童の保健Ⅰ・Ⅱ」を中心に「障害児保育」「保育心理学」「相談支援」等に統合

７．単位数の変更

①「保育原理」４単位→２単位
②「障がい児保育」１単位→２単位に増
保育現場における障害のある子どもの入所の増加、障害の多様性、特に発達障害及びその疑いのある子どもの増加や保護者への支援を含めて、専門的対応が必要となっている。また、個別の支援計画の作成が求められている。

③「保育実習Ⅰ」「保育実習指導」計５単位→「保育実習Ⅰ」４単位
「保育実習指導Ⅰ」２単位　計６単位

「保育実習Ⅱ又はⅢ」２単位→実習２単位と「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」１単位を加え
計３単位とする。

保育実習における事前事後指導の充実と効果的学習のために、３回の各実習ごとに実習指導を行うことが必要。実習の振り返り、評価を次の実習や教科学習につなげ、学びを深化させていくことが重要
なお、保育実習Ⅰにおいて、現行の「保育所以外の児童福祉施設」の実習を居住型に限定せず、通所施設等、多様な選択を可能としたらどうか。

教科目別の改定案の内容と主なポイント

教科領域	教科名（教授方法）単位数	改定及び教授内容の主なポイント
保育の本質・目的に関する科目 計12単位	保育原理（講義）　２	・現行４単位→２単位 ・現行の目標３～９項目は改訂案の２．保育所保育指針における保育の基本にすべて包含される。 ・子どもの保育の基本を中心に諸外国と日本の保育の現状と課題を内容に盛り込む。
	教育原理（講義）　２	・基本的に現行を踏襲。実践原理、指導原理、教育学的な施行等の言葉はわかりやすい言葉に置き換える。
	児童家庭福祉（講義）２	・「児童福祉」から「児童家庭福祉」に変更。家庭支援、子育て支援等を含めたこの名称が広く行き渡っていることによる。 ・現行の細かい各項目を包含するような柱や項目をたてるとともに、保育との関連、子どもの人権擁護について盛りこむ。現行の児童福祉従事者については新科目「保育者論」に移行する。
	社会福祉（講義）２	・社会福祉と児童福祉との関連、保健・医療・保育・教育等との連携、諸外国の動向について盛り込む。
	社会的養護（講義）２	・「養護原理」を「社会的養護」に変更。社会的養護の名称が浸透していることや、保育における「養護と教育」の「養護」と混乱するという声もあった。新たに「社会的養護と地域福祉」の項目を入れる。
	保育者論（講義）２	・新設科目。教科名は「者」であるが内容は保育士の役割と責務に関することが中心。
保育の対象の理解に関する科目 計12単位	保育心理学Ⅰ（講義）２	・主に現行の教育心理学と発達心理学、精神保健を統合した科目 ・保育実践との関連で子どもの心身の状態や発達を把握する技術を高め、子ども理解を深めるための学びとする。
	保育心理学Ⅱ（演習）１	・Ⅱでは、保育の具体的場面で、個と集団の育ちを踏まえ、より質の高い子どもの発達援助を行う実践力を修得する。
	児童の保健Ⅰ（講義）４	・「小児保健」から「児童の保健」に変更。児童福祉、保育における保健として、Ⅰでは保育士が修得すべき保健に関する基本的な知識・技術や施設の衛生・安全管理等について学ぶ。
	児童の保健Ⅱ（演習）１	・Ⅱでは、保育所や施設における保健活動や具体的な対応について学び、子どもの健康と安全を守るための技量を高める。
	児童の食と栄養（演習）２	・「小児栄養」から「児童の食と栄養」に変更。子どもの食生活や食育の重要性、家庭や施設における食事と栄養等、食物アレルギーのある子ども等について盛り込む。
	家庭支援論（講義）２	・「家族援助論」から「家庭支援論」に変更。保護者から家族、家庭、地域を視野に入れた支援体制について理解を深める。

教科領域	教科名（教授方法）単位	改定及び教授内容の主なポイント
保育の内容・方法に関する科目 合計15単位	保育課程論（講義）　2	・新設科目。保育の計画と評価に関わる内容を保育課程や保育所児童保育要録の作成等を踏まえ具体的に学ぶ。
	保育内容総論（演習）1	・保育内容を多様な視点で総合的に学ぶための教科。これまで、保育内容の中に混在していた演習と総論を分ける。
	保育内容演習（演習）5	・保育内容総論の内容を踏まえ、養護と教育の５領域の総合的理解と保育実践力を養う。
	乳児保育（演習）　2	・乳児保育、３才未満児の保育についてより整理して示す。家庭的保育、在宅保育について盛り込む。
	障がい児保育（演習）2	・１単位→２単位に増。「障害児保育」を「特別支援保育」にという声もある。「障がい」という表記については要検討。
	社会的養護内容（演習）1	・社会的養護の内容について、事例分析や保育士の専門性との関連でより具体的に学ぶ。
	保育相談支援Ⅰ（演習）1	・Ⅰでは、より保育現場における保護者支援の具体的実践力に結びつく内容とする。
	保育相談支援Ⅱ（演習）1	・「社会福祉援助技術」からの変更であるが、「保育相談支援」又は「保育相談援助」とするか要検討。
保育の表現技術	保育表現技術（演習）　4	・「基礎技能」を「保育表現技術」に変更。現行の内容にある音楽、造形、体育を、身体表現、音楽表現、造形表現、児童文化財等に関わる保育の表現技術とする。
保育実習	保育実習Ⅰ（実習）　4 保育実習指導Ⅰ（演習）2	・保育実習と実習指導を分けて示す。 ・施設実習を「居住型児童福祉施設等」に加え障害児通所施設等も対象とする。
総合演習	保育実践演習（演習）　2	・「保育総合演習」は幼免において「教職実践演習」と名称を変更したことを受けて「保育実践演習」に変更。
必修科目　計		５１
保育に関する科目　６以上 （上記の系列より科目設定）		・２単位減少
保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）　2 保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習）　1		・実習Ⅱ又はⅢにも「実習指導」１単位をつける。 ・実習での学びを深め、より有効な実習とするために事前、事後指導の充実を図る。

第３回保育士養成課程等検討会	参考資料１
平成２２年１月１８日	

第２回保育士養成課程等検討会における主な意見

・保育所における障害児の個別支援計画の作成や療育機関との連携に関して、課題があり、特に現在たいへん増えている発達障害の子どもに対する知識や援助技術を保育士養成課程で教授する必要がある。
・保育原理４単位を２単位にし、「保育者論」を新設してはどうか。保育士の倫理及び責務や専門性に関わる領域とする。
・保育指針の改定内容を受け、「教育原理」に小学校の連携について盛り込んではどうか。
・「教育心理学」を「発達心理学」及び「教育原理」に統合できないか。
・「精神保健」を「小児保健」と統合し、講義の形態にしてはどうか。
・「家族援助論」を「家庭支援論」という一般的に使われている言葉にしてはどうか。
・保育指針の改定内容を受け、計画と評価に関わる科目を新設する必要がある。
・保育実習に事前事後指導の時間を増やし、実習を効果的なものにする必要がある。
・地域との連携や協働の必要性を踏まえ、「地域福祉」という科目を新設してはどうか。
・「社会福祉援助技術」の科目名を「相談・援助」にしてはどうか。その際、保護者に対する相談援助を中心とした「相談援助Ⅱ」を創設したらどうか。
・伸びしろのある保育士をどう養成していくか。特に、「養護と教育の一体性の強化」、「継続教育の可能性」を視野に入れ、現状を踏まえた学習内容について検討することが重要。
・２年制、４年制の養成、卒後の現任教育を構造化することが必要。
・資料にある「今後充実が必要な科目」として上がっている「家族援助論」「発達心理学」「障害児保育」というのは、学習内容に課題があるのではないか。
・教育心理学が発達心理学に統合されると、発達心理学自体の教科内容が削減されることになりはしないか。
・小児保健、小児栄養の科目だけ、なぜ「小児」であり「児童」ではないのか、児童福祉の枠組みで考えたときそぐわないように思う。
・保育所、児童福祉施設、乳児院などの計画と評価をすべて教授できる教員はいないのではないか。不徹底な学習になりはしないか。
・養護と教育の一体性というときの「養護」と、社会的養護の「養護」は同義ではなく、この他にも用語の不統一があるのではないか。
・世界のトレンドからしても、乳幼児期の子どもの学びをどう保障していくかということが課題となっており、子どもを観察する力を養成することが必要である。
・「地域福祉」「家族援助論」等は４年制に回したらどうか。２年制では子どもの保育を中心

に保育士業務のコアを充実させるべき。

・学習内容による枠組みを設定し、科目間の重複を整理する必要がある。

・養成段階でこそ「考える力」を身につけるトレーニングが必要。また、一人一人の子どもの実情に沿って保育の計画を考え、臨機応変に保育することが求められている。

・保育現場では、養護と教育、両方に課題がある。遊びを中心にした教育、低年齢児の養護に関わるスキルの修得が必要。また、障害児保育に関する知識・技術が不足している。

・育児不安を抱える保護者が増加しており、相談援助の技術や他機関との連携がより重要になっているが、２年間の養成で可能なのかどうか。また、地域において1/4がひとり親家庭であり、保育所を拠り所としている方も多い。

・食物アレルギーのある子どもが増えている。除去食、代替食の提供、医師との連携がより必要になっている。

・保護者の虐待や不適切な養育を最初に発見するのは保育所であり、こうしたことへの対応についても養成課程でしっかりと学ぶ必要がある。

・実習指導については現場と養成校教員の緊密な連絡・連絡が必要。主任保育士等が実習生指導に要する時間や負担も大きい。

・保育課程から自己評価までの内容や方法を学んでほしい。

・幼保小連携の課題がある中で、それぞれの役割や機能についてまず、学んでほしい。

・全国保育士会では保育士の倫理綱領を採択し、その浸透を図っている。また、保育士の研修体系を作成したところである。

・地域住民が保育園にアプローチしていく仕組みやネットワークが重要であり、人とつながる力、問題解決していく力を学生たちにも学んでほしい。

・地域の人の力を引き出し、それぞれが主体的に関われるよう地域の資源としての保育園の機能を活用していくことが大切。

・発達の問題を抱えている子どもや保護者への対応、中学校まで視野に入れた学校との連携が重要。特に「発達」に関する専門性を保育園の機能としてどうつけていけるのか。

・保育のプロとして成長していく道筋や専門性がどのようなものか、その全体像を眺め、期待感や学習経験による喜びを経験することが学生時代には最も重要。保育士になったあとも学び直しができる仕組みや手が届くところにリソースがあることも必要。

・「保育士論」ではなく「保育者論」としたのは幼稚園教諭など総合的に踏まえたものとするためである。８割以上両免取得であり幼稚園教諭養成課程を考慮する必要がある。

・保育士養成として基本的に大切なものはなにかという検討がまずなければならず、実際の養成の場において幼・小など複数資格への対応があるが、保育士養成のあるべき姿を明確にすることが必要。

・保育士養成はあくまで０歳から１８歳までの子どもの保育・養育に関わる専門職であり、保育士の特性を明確にした養成内容を構築することが前提である。

・「発達心理学」と「教育心理学」を統合する場合、どちらかの名称を残すのではなく、例

えば「保育心理学」とすることや、「小児保健」と「精神保健」統合して「児童の保健」「児童の心身の保健」とすることなどを考えてもよいのではないか。

・現在の保育指針は環境による教育をベースにしているはずなのに、「環境と保育」や環境構成等に関わる内容がないのは問題である。

・「発達心理学」の内容も野生児の事例などたいへん古く、現在の生態心理学とはだいぶ異なるので見直しが必要。

・教科の目標、内容を改定するとともに、教科の順序性や提示の仕方を考慮する必要もある。ただ、保育という営みは様々な領域との関連や重なりがあるということも事実。

・保育士養成課程を見ると、大枠の座りがよくないと思われる。他の分野の養成課程も参考にしながら保育を学ぶための基礎科目を整理することが必要。

・保育指針の改定を踏まえての改訂であるが、他の児童福祉施設の変化や役割機能も変わってきていることを十分踏まえるべきである。

・養成校は文部科学省が所管する学校教育の体系があるため、科目名にしてもたやすく変更できないということもあるだろう。

・「教育心理学」は応用心理学であり、生活を中心とする「保育心理学」などの教科名も考慮するなど、教授する内容を十分に踏まえて検討すべきである。

・「小児保健」と「精神保健」は統合せず、別々の科目として残すべきではないか。同じヘルスとはいえ、乳幼児期から青年期までの精神保健や保護者や家族との関わりを含めた精神保健は近年ますます重要である。

・「家族援助論」は「家庭支援論」又は「保護者支援論」とした方が中味が見えてくるように思う。

・保育マネジメントの重要性が高まっていることを踏まえ、特に４年制では施設経営論を位置づける必要がある。

・「相談援助」についても内容を精査し、全般的なスキルを踏まえ段階を追って考えていくべきである。

・現在、発達心理学が一つのパラダイム転換を起こしているなかで、発達と環境の相互性や保育環境の重要性を学ぶ内容が必要である。

第３回保育士養成課程等検討会	参考資料２
平成２２年１月１８日	

主な児童福祉施設の施設数及び保育士数（常勤換算）

	施設数	保育士数（常勤換算）（人）
保育所	22,838	320,420

入所施設	施設数	保育士数（常勤換算）（人）
乳児院	121	2,055
母子生活支援施設	272	202
児童養護施設	564	4,633
知的障害児施設	251	1,588
自閉症児施設	6	45
盲児施設	10	35
ろうあ児施設	14	55
肢体不自由児施設	63	410
肢体不自由児療護施設	6	63
重症心身障害児施設	124	1,389
情緒障害児短期治療施設	31	78
児童自立支援施設	58	3
小　計	1,520	10,556

通所施設	施設数	保育士数（常勤換算）（人）
知的障害児通園施設	257	2,136
難聴幼児通園施設	25	58
肢体不自由児通園施設	98	441
小　計	380	2,635

合　計	24,738	333,611

出典：平成19年社会福祉施設等調査（平成19年10月1日現在）

第２回保育士養成課程等検討会	参考資料３
平成２２年１月１８日	

幼稚園教諭二種免許及び保育士資格取得に必要な教科目の比較

【幼稚園教諭二種免許】

一般教育科目等 （31単位）		日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器操作 を含む31単位を履修	31
教科に関する科目 （4単位）		国語 算数 生活　　のうち1科目 音楽　　以上で4単位 図画工作　を履修 体育	4
教職に関する科目 （27単位）	教育の基礎理論に関する科目 （4単位）	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	
	教育課程及び指導法に関する科目 （12単位）	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	12
		教育課程の意義及び編成の方法	
		保育内容の指導法	
	教育実習（5単位）		5
	教職の意義等に関する科目 （2単位）	教職の意義及び教員の役割	2
		教員の職務内容（研修・服務及び身分保障等を含む。）	
		進路選択に資する各種の機会の提供等	
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 （2単位）	幼児理解の理論及び方法	2
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	
	教育実践演習（2単位）		2
最低修得単位数			62

【保育士資格】（改正案）

8単位以上	教養科目	必修 （2単位）	体育講義 体育実技	1単位 1単位
		選択必修	外国語等	6単位以上
必修 51単位 選択必修 9単位以上	保育の表現技術	必修（4単位）	保育表現技術（演習）	4単位
		選択必修		
	保育の本質・目的の理解に関する科目	必修 （12単位）	保育原理（講義） 教育原理（講義） 児童家庭福祉（講義） 社会福祉（講義） 社会的養護（講義） 保育者論（講義）	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位
		選択必修		
	保育の対象の理解に関する科目	必修 （12単位）	保育心理学Ⅰ（講義） 保育心理学Ⅱ（演習） 児童の保健Ⅰ（講義） 児童の保健Ⅱ（演習） 児童の食と栄養（演習） 家庭支援論（講義）	2単位 1単位 4単位 1単位 2単位 2単位
		選択必修		
	保育の内容・方法の理解に関する科目	必修 （15単位）	保育課程論（講義） 保育内容総論（演習） 保育内容演習（演習） 乳児保育（演習） 障がい児保育（演習） 社会的養護内容（演習） 保育相談支援Ⅰ（演習） 保育相談支援Ⅱ（演習）	2単位 1単位 5単位 2単位 2単位 1単位 1単位 1単位
		選択必修		
		選択必修	保育実習以外の系列から6単位以上 保育実習Ⅱ又はⅢ　3単位以上	
	総合演習	必修（2単位）	保育実践演習（演習）	2単位
	保育実習	必修（6単位）	保育実習（実習） 保育実習指導（演習）	4単位 2単位
		選択必修 （Ⅱ又はⅢ 3単位以上）	保育実習Ⅱ（実習） 保育実習指導Ⅱ（演習） 保育実習Ⅲ（実習） 保育実習指導Ⅲ（演習）	2単位 1単位 2単位 1単位
68単位以上	合計			

【保育士資格】（改正前）

8単位以上	教養科目	必修 （2単位）	体育講義 体育実技	1単位 1単位
		選択必修	外国語等	6単位以上
必修 50単位 選択必修 10単位以上	基礎技能	必修（4単位）	基礎技能（演習）	4単位
		選択必修		
	保育の本質・目的の理解に関する科目	必修 （14単位）	社会福祉（講義） 社会福祉援助技術（演習） 児童福祉（講義） 保育原理（講義） 養護原理（講義） 教育原理（講義）	2単位 2単位 2単位 4単位 2単位 2単位
		選択必修		
	保育の対象の理解に関する科目	必修 （15単位）	発達心理学（講義） 教育心理学（講義） 小児保健（講義・実習） 小児栄養（演習） 精神保健（講義） 家庭援助論（講義）	2単位 2単位 5単位 2単位 2単位 2単位
		選択必修		
	保育の内容・方法の理解に関する科目	必修 （10単位）	保育内容（演習） 乳児保育（演習） 障害児保育（演習） 養護内容（演習）	6単位 2単位 1単位 1単位
		選択必修		
		選択必修	保育実習以外の系列から8単位以上 保育実習Ⅱ又はⅢ　2単位以上	
	総合演習	必修（2単位）	総合演習（演習）	2単位
	保育実習	必修（5単位）	保育実習（実習）	5単位
		選択必修 （2単位以上）	保育実習Ⅱ（実習） 保育実習Ⅲ（実習）	2単位 2単位
68単位以上	合計			

（注）幼稚園教諭二種免許取得に必要な科目の詳細な設定は、各学校で行う。

（注）保育士資格の選択必修科目はすべての系列からあわせて9単位以上(うち保育実習2単位、保育実習指導1単位以.

（注）保育士資格の選択必修科目はすべての系列からあわせて10単位以上(うち保育実習　2単位以上)